



令和5年(2023)9月21日

特別展「大名と菓子 一百菓繚乱」を開催します

このたび、彦根城博物館において、みだしの展覧会を開催いたしますのでお知らせします。

記

1 展覧会名称

特別展「大名と菓子 一百菓繚乱」

2 会 期

令和5年(2023)10月7日(土)～11月6日(月) ＊会期中無休

開館時間：午前8時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)

3 会 場

彦根城博物館 展示室1・2

4 展示の趣旨

古来、日本では、中国などの外国の文化の影響を受けながら独自の菓子の文化が育まれてきました。古くは菓子と言えど果実でしたが、奈良時代には、大陸文化の影響を受け、米や麦などの穀類、豆・そばなどの雑穀類、砂糖を原料に、蒸したり油で揚げたりといった複雑な製法を駆使した菓子が作られるようになりました。これが、現在の和菓子の原型とされています。このような加工菓子は、南北朝末期から室町時代には、茶の湯をはじめとする饗応文化の発展の中で、より広い層に求められるようになります。そして、桃山時代にもたらされた南蛮文化の影響を受け、江戸時代中期には、加工菓子を中心とする菓子の形式が洗練され、完成の域に達したとされています。

江戸時代、菓子は、幕府の儀礼や贈答の場で重用され、江戸は、菓子作りの先進地であった京とともに、菓子文化の中心地となりました。大名たちはしばしば、好みの菓子を注文し、自らが食すだけでなく、他大名や家族、家臣への贈り物として用いていました。贈られた菓子が気に入れば、御用菓子屋に同じものを作らせるなどして楽しんでいたことも、近年の研究から明らかになってきました。

将軍家や大名家の御用を勤めた菓子屋に伝来した注文書や、菓子意匠の見本帳、菓子

製作で用いる木型などを見ると、大名たちが、自らの「好み」を菓子に体现すべく、その味や意匠に趣向を凝らしていたことが窺い知れます。実は大名こそが、江戸時代の菓子文化の醸成を牽引したと言っても過言ではないのです。

令和5年4月、彦根市は「井伊直弼公の功績を尊び茶の湯・一期一会の文化を広める条例」を制定しました。本展は、この条例の施行記念として開催するもので、茶人としても著名な松江藩松平家7代治郷（号 不昧）（1751～1818）や、「数寄の殿様」と呼ばれた紀伊藩徳川家10代治宝（1771～1852）、菓子器を自作し茶会に用いた彦根藩井伊家13代直弼（1815～60）らをはじめ、菓子に深い関心を寄せた大名たちにゆかりの菓子木型や菓子雛形、茶会記や注文書などの種々の資料を一堂に展示します。華やかな彩りに満ちた大名と菓子の世界をご覧ください。

5 展示構成

第1章 菓子のはじまり

- (1) 草創期の菓子 ―果物から加工菓子へ―
- (2) 菓子の完成と広まり ―多様化と伝播―
- (3) 茶の湯と菓子

第2章 大名と菓子

- (1) 武家社会の中の菓子 ―儀礼と贈答―
- (2) 大名お好みの菓子 ―百菓繚乱―

6 展示作品

別添リストの70件

7 観覧料

一般 500円(450円)

小・中学生 250円(170円) ()内は30名以上の団体割引料金

*常設展「“ほんもの” との出会い」も併せてご覧いただけます。

8 関連事業

(1) 講演会

①記念講演会「江戸時代の菓子文化」

日 時：令和5年(2023)10月21日(土) 午後2時～3時30分

講 師：中山 圭子氏(株式会社虎屋特別理事・虎屋文庫主席研究員)

定 員：50名 *事前申込制。定員を超えた場合は抽選となります。

受講料：400円 *展示室への入室には、別途、観覧料が必要。

場 所：彦根城博物館 講堂

②講演会「井伊家と菓子」

日 時：令和5年(2023)10月14日(土) 午後2時～3時30分

講 師：奥田 晶子(当館学芸員)

定 員：50名 *当日先着順、午後1時30分から受付。

資料代：100円 *展示室への入室には、別途、観覧料が必要。

場 所：彦根城博物館 講堂

(2) スライドトーク

日 時：令和5年(2023)10月 7日(土) 午後2時～ *30分程度

講 師：奥田 晶子(当館学芸員)

定 員：50名 *当日先着順、午後1時30分から受付。

参加費：無料 *展示室への入室には、別途、観覧料が必要。

場 所：彦根城博物館 講堂

問い合わせ先

彦根市教育委員会事務局

彦根城博物館 学芸史料課

担当：奥 田 晶 子

(電話 0749-22-6100)

写真解説

1 黒漆塗 柏葉文螺鈿沈金高坏 1基 (作品リストNO. 4)

最大径32.0cm 高さ28.3cm

桃山時代

サントリー美術館蔵



高坏は、神や貴人に捧げる食べ物を盛る器で、菓子器としても重用されました。本作は、随所に精緻な螺鈿と沈金を施した高坏の優品で、天板の中央に柏の葉の折枝を表し、周縁に菊唐草を、天板裏から支柱・基台にかけて葡萄文を表し、基台周縁には菱繫文を廻らせています。

柏葉は、神や貴人への捧げ物を盛る際にしばしば用いられました。その柏葉を天板にあしらった本作は、まさに、特別な儀礼の場で用いるにふさわしい器といえます。

*サントリー美術館から提供された画像です。掲載の際はその旨を明記ください。

2 禁裏下賜玄猪餅 1包 (作品リストNO. 5)

最大径2.0cm 厚み0.25cm 他

江戸時代後期

京都府立京都学・歴彩館蔵



平安時代から、旧暦10月（亥の月）の亥の日に、宮中において、新穀でついた餅が、羊歯や楓の葉とともに畳紙に包んで天皇から下賜されました。後にこれを亥の子餅もしくは玄猪餅と呼ぶようになりました。

本品は、丹波綾部藩の重臣、平和家に伝来した玄猪餅です。平和家の娘の邦が仕えた公家の烏丸家が時の仁孝天皇から賜った餅がさらに邦に与えられたものと伝わります。

天皇から賜った玄猪餅には特別な霊力が込められ、これを食すことで、病が治癒すると信じられました。この

餅には削り取ったような跡がみられ、菓として少量ずつ食した可能性が指摘されています。

＊京都府立京都学・歴彩館から提供された画像です。掲載の際はその旨を明記ください。

3 ^{おらんだりょうりず}阿蘭陀料理図 1巻 (作品リストN0.12)

重要文化財

縦27.6cm 横321.8cm

文化9年(1812) 小林義兄 写

彦根城博物館蔵(彦根藩井伊家文書)



江戸時代中後期の彦根藩の陪臣で国学者、博物学者であった小^こ林^{ばやし}義^し兄^え (1743～1821) による写本です。巻末に、石印工の吉田月溪なる人物が長崎で写した図をさらに写した旨が記されています。

内容は、蜜漬類、タルタなど七種の阿蘭陀菓子に加えて、コップハンテクーペイス (牛頭)、スペイト (子豚の丸焼) などの阿蘭陀料理を載せています。寛政10年 (1798) 以前の成立と考えられる『阿蘭陀正月料理図』(井元コレクション蔵) に図・文言ともに近似し、両者の関連性が注目されます。

阿蘭陀菓子は、オランダ人を通じて日本に紹介された西洋菓子です。江戸時代の当時は一般に流布していない希少な存在であり、この図は、その新奇性に注目し写されたと判断されます。

4 ^{かなざわたんごもんじょ}金澤丹後文書の内 ^{かなざわたんごおおてごようかんさつ}金澤丹後大手御用鑑札 1点 (作品リストN0.34)

縦14.4cm 横11.0cm

慶応3年(1867)2月

江戸東京博物館蔵



江戸城の表門であった大手門の鑑^{かん}札^{さつ}。幕府の菓子御用を勤めた金澤丹後^{かなざわたんご}が、江戸城へ御用のために入出入りした際に用いたものです。

江戸時代、菓子の主原料となる砂糖は幕府によって厳しく管理されていました。砂糖を用いた上質な菓子は「上菓子」、それを専門とする菓子屋は「上菓子屋」と呼ばれ、彼らは幕府の公認を得て商っていました。金澤丹後は砂糖管理の実務を担う菓子屋の一つで、全国の上菓子屋仲間を采配する立場にありました。

＊江戸東京博物館から提供された画像です。掲載の際はその旨を明記ください。

5 復元菓子「ハリスへの接待菓子」 1式（作品リストNO.42）

各 縦47.0cm 横41.0cm

制作：福留千夏、協力：虎屋文庫

平成19年(2007)

玉泉寺ハリス記念館蔵



初代駐日米国総領事として着任したタウンゼンド・ハリス(1804～78)へ、13代将軍徳川家定から贈られた菓子の復元です。

日米修好通商条約締結の交渉のため、ハリスは13代将軍徳川家定に謁見すべく、安政4年(1857)10月14日に江戸に到着しました。この菓子は、その翌日に贈られたもので、『嘉永明治年間録』にその内容が詳しく記されています。櫨の四段重ねの重箱に、一段目と二段目は干菓子で、「若菜糖・翁草・玉花香・紅太平糖・三輪の里・大和錦・花沢瀉・庭砂香・千代衣」が、三段目と四段目には蒸菓子で、「紅カステラ巻・求肥飴・紅茶巾餅・難波杳目羹・唐饅頭」が入っていたと書かれています。

*たばこと塩の博物館から提供された画像です。掲載の際はその旨を明記ください。併せて、必ず「制作：福留千夏、協力：虎屋文庫」と併記をお願いします。

6 菓子木型「錦花糕」 5組（作品リストNO.45）

各 縦22.8cm 横17.5cm

江戸時代後期

両口屋是清蔵

7 復元菓子「錦花糕」 5箇（作品リストNO.46）

各 縦13.3cm 横14.3cm

令和5年(2023)

両口屋是清蔵

尾張藩徳川家の御用を務めた両口屋是清に伝来した木型とその復元菓子。木型は本来は6組1揃いでしたが、1組が失われています。これを使って復元したのがNO.7の菓子です。

実は、紀伊藩徳川家の御用を務めた駿河屋伝来の菓子絵手本の中に、これと同意匠の菓子図があり、図の傍らに、天保6年(1835)に「尾州様」から贈られた落雁について、仰せの通りその木型ができた」と記されています。尾張藩徳川家から紀伊藩徳川



家に贈られた落雁を元に、紀伊藩徳川家の命を受けて駿河屋が木型を作成し、同じ意匠の落雁が作られたと考えられるのです。

駿河屋の木型は残念ながら現存しません、その元となったと考えられるのが両口屋是清伝来の本品なのです。



▲「錦花糕」の木型と復元菓子のうち雛菊部分

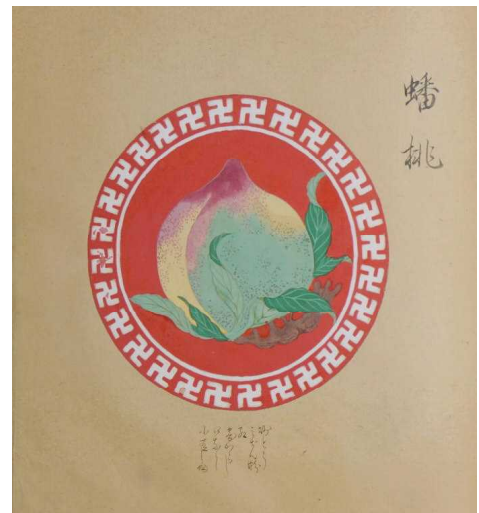
8 駿河屋伝来菓子木型の内「蟠桃」 1組（作品リストNO. 47）

和歌山市指定文化財

縦21.2cm 横28.1cm

江戸時代後期 天保12年(1841)

和歌山市立博物館蔵



▲参考：駿河屋伝来菓子絵手本「蟠桃」

紀伊藩徳川家10代治宝（1771～1852）とその跡を継いだ11代斉順（1801～46）は、みずから菓子の意匠を考案し、その製作を駿河屋に命じました。同店には、彼らの注文に応じて制作された木型65件87組が伝来し、現在和歌山市立博物館に収められています。

写真の作品は、長寿を司る西王母の持物「蟠桃」を象った菓子の木型です。紀伊藩の御用を代々勤めた菓子商、駿河屋に伝来したもので、治宝好みの品です。治宝は、表千家の茶の湯を熱心に取り入れ、京の陶工を招聘して瑞芝焼を興したほか、古楽器の収集を行うなど、諸芸を愛し「数寄の殿様」とも呼ばれた人物です。

高度な彫りの技術に裏打ちされた華麗な意匠の本品は、治宝が菓子に求めた「美」の有様を今に伝えています。

＊和歌山市立博物館から提供された画像です。掲載の際はその旨を明記ください。

9 多賀 杓子形菓子器 1枚 (作品リストNO. 64)

高さ4.7cm 最大径23.3cm

井伊直弼 作

江戸時代後期

彦根城博物館蔵(井伊家伝来資料)



江戸時代後期の代表的な大名茶人として知られる井伊家13代直弼（1815～60）自作の菓子器。延命長寿の御利益があることで知られる多賀大社の「御多賀 杓子」の柄を切り落として菓子盆に仕立てた作品です。

特別展「大名と菓子」展示作品リスト1/6

◎…重要文化財、◇…市指定文化財

通番	指定	作品名称	員数	制作者	制作年	所蔵者
第1章 菓子の始まり						
(1) 草創期の菓子 ー果物から加工菓子へー						
1		続日本紀	20冊の内第6冊 (巻12天平8年11月条)	藤原継縄他 撰	延暦16年(797)成立	彦根城博物館(井伊家伝来典籍)
2		類聚雑要抄指図	6巻のうち巻1上	紀宗恒 著 文仁親王 跋	元禄17年(1704)跋	東京国立博物館
3		有職菓子模造	1式		江戸時代中～後期	東京国立博物館
4		黒漆塗柏葉文螺鈿沈金高坏	1基		桃山時代	サントリー美術館
5		禁裏下賜玄猪餅	1包		江戸時代後期	京都府立京都学・歴彩館
6		七十一番職人歌合絵 「七番 餅売り」 「十八番 饅頭売り」	2巻のうち上巻		江戸時代後期 写	彦根城博物館(井伊家伝来資料)
7		酒餅論	1冊		江戸時代前～中期 写	個人
8		料理物語	1冊		寛永20年(1643)	東京都立中央図書館
9		古今名物御前菓子秘伝抄	1冊	梅村水玉堂 著	享保3年(1718)	東京都立中央図書館
10		古今名物御前菓子図式	2冊	風雅亭主人 著	宝暦10年(1760)	東京都立中央図書館
11		菓子話船橋	1冊	船橋屋織江 著	天保12年(1841)	東京都立中央図書館
〈多様化する菓子製法と意匠〉						
12	◎	阿蘭陀料理図	1巻	小林義兄 写	文化9年(1812)写	彦根城博物館(彦根藩井伊家文書)
13		点心之巻	1巻		江戸時代後期	彦根城博物館(井伊家伝来典籍)
14		万宝料理秘密箱	2冊	器土堂 著	天明5年(1785)	彦根城博物館(井伊家伝来典籍)

特別展「大名と菓子」展示作品リスト2/6

通番	指定	作品名称	員数	制作者	制作年	所蔵者
〈砂糖の流通と上菓子仲間〉						
15		金澤丹後文書の内 文政六末年より御砂糖冥加金割	1冊		文政6～9年(1823～26)	江戸東京博物館
16		遠藤仁兵衛家文書の内 条目帳	1冊		文政13年(1830)	個人
(3) 茶の湯と菓子						
〈茶会と菓子〉						
17		利休百会記	1冊		江戸時代後期 写	彦根城博物館(井伊家伝来典籍)
18		石州流茶之湯秘伝集	3冊の内1冊	伊藤正長 編	江戸時代後期	彦根城博物館(井伊家伝来典籍)
19		会席料理帳	1冊	禿箒子 著	天明4年(1784)	彦根城博物館(井伊家伝来典籍)
20		網目文懷石道具	1式	伝 5代中村宗哲 作	享和元年(1801)	東京国立博物館
21		七宝唐花文菓子盆	1枚		中国・明時代	徳川美術館
22		青磁天龍寺菓子鉢	1口		中国・明時代	徳川美術館
23		祥瑞州浜形栗鉢	1口		中国・明時代	香雪美術館
24		飛青磁振出壺	1口		中国・元時代	徳川美術館
25		叢梨地山水千鳥萩蒔絵茶箱の内 梨地柳蒔絵振出	1口		江戸時代中～後期	彦根城博物館(井伊家伝来資料)
第2章 大名と菓子						
(1) 武家社会の中の菓子 ―儀礼と贈答―						
26		柳営秘鑑	10冊のうち		江戸時代	彦根城博物館(井伊家伝来典籍)
27	◎	老中奉書	1状	本多忠良 差出 井伊直定 宛	元文元年(1736)	彦根城博物館(彦根藩井伊家文書)

特別展「大名と菓子」展示作品リスト3/6

通番	指定	作品名称	員数	制作者	制作年	所蔵者
28	◎	西丸老中奉書	1状	内藤紀伊守信親 差出 井伊直弼 宛	嘉永5年(1852)	彦根城博物館(彦根藩井伊家文書)
29	◎	井伊直亮窺書	1状	井伊直亮 筆	文政11年(1828)	
30		饗膳床飾膳部絵図	1巻	牧山義忠 筆	天保10年(1839)	彦根城博物館(井伊家伝来典籍)
31	◎	御成之節菓子出方覚	1冊		文政11年(1828)	彦根城博物館(彦根藩井伊家文書)
32	◎	老中若年寄等饗応仕法覚	1枚		江戸時代中～後期	彦根城博物館(彦根藩井伊家文書)
〈嘉祥の菓子〉						
(参考)		(写真パネル) 徳川礼典録	3冊のうち	松平慶永他 編	昭和17年(1942)	国立国会図書館
(参考)		(写真パネル) 千代田之御表 六月十六日嘉祥ノ図	1帖	揚州周延 作	明治30年(1897)	国立国会図書館
33	◎	嘉祥之式書	1枚		江戸時代後期	彦根城博物館(彦根藩井伊家文書)
	◎	嘉祥之式図	1枚		江戸時代後期	彦根城博物館(彦根藩井伊家文書)
〈御用菓子屋の活躍〉						
34		金澤丹後文書の内 金澤丹後大手御用鑑札	1点		慶応3年(1867)2月	江戸東京博物館
35		金澤丹後文書の内 一ツ橋御廣鋪御膳御菓子直段帳	1冊		天保7年(1836)8月改	江戸東京博物館
36		金澤丹後文書の内 日記(従慶応二年寅正月元旦至同三年十二月限)	1冊		慶応2～3年(1866～67)	江戸東京博物館
37		金澤丹後文書の内 御嘉祥注文	1枚		文政元年(1818)6月	江戸東京博物館
38		金澤丹後文書の内 金澤屋引札	1枚	藤原吉久 作	江戸時代後期	江戸東京博物館
39		金澤丹後文書の内 東都流行御菓子繁昌競鑑(菓子屋番付)	1枚		江戸～明治時代	江戸東京博物館
40		(複製) 竹虎青貝井籠	1基		原本：伝 元禄11年(1698)	虎屋文庫

特別展「大名と菓子」 展示作品リスト4/6

通番 指定	作品名称	員数	制作者	制作年	所蔵者
41	(複製) 御菓子之畫圖 (虎屋黒川家文書)	1冊		原本：宝永4年(1707)	虎屋文庫
42	復元菓子「ハリスへの接待菓子」	1式	制作：福留千夏 協力：虎屋文庫	平成19年(2007)	玉泉寺ハリス記念館
(2) 大名お好みの菓子 ー百菓繚乱ー					
〈尾張藩徳川家と菓子〉					
43	御深井焼 三島写 葵紋付菓子鉢 彫銘「以祖母懷□□造之」	1口	伝 加藤春岱 作	江戸時代後期	徳川美術館
44	尾張徳川家伝来 菓子見本帳	5種6冊		江戸時代中～末期	名古屋市蓬左文庫
45	菓子木型 「錦花糕」	5組		江戸時代後期	両口屋是清
46	復元菓子 「錦花糕」	5箇		現代	両口屋是清
〈紀伊藩徳川家と菓子〉					
47	◇ 駿河屋伝来 菓子木型	10種15組		江戸時代後期	和歌山市立博物館
48	◇ 駿河屋伝来 菓子絵手本	4冊		江戸時代後期	和歌山市立博物館
〈水戸藩徳川家9代斉昭と菓子〉					
49	菓子雛形「銘 雪月花」・「銘 秋の野」	2幅	徳川斉昭 筆	江戸時代後期	虎屋
〈福井藩松平家16代慶永と菓子〉					
(参考)	(写真パネル) 御用日記	1冊	鈴木主税 筆	弘化4年(1847)	福井県立図書館
50	松平春嶽所用 玉川蒔絵菓子箆笥	1式		江戸時代後期	福井市立郷土歴史博物館
〈松江藩松平家と菓子〉					
51	(複製) 菓子木型「沖の月」	1点	原本：荒川亀斎 作	原本：江戸時代後期	松江歴史館 (原本：一力堂)
52	(複製) 御菓子直伝帳	1冊		原本：嘉永元年(1848)	松江歴史館 (原本：一力堂)

特別展「大名と菓子」展示作品リスト5/6

通番	指定	作品名称	員数	制作者	制作年	所蔵者
53		板額（看板） 銘「たまみず・やまかつら」	1面	松平不昧 命銘 伝 小林如泥 作	江戸時代後期	松江彩雲堂
54		黒漆塗葵紋四段菓子箱 黒漆塗葵紋二段菓子箱	各 1合		江戸時代後期	松江歴史館
55		菓子銘「白沢」 書付	1幅	松平斉貴 筆	安政元～4年(1854～57)	松江歴史館
〈加賀藩前田家と菓子〉						
56		金澤 森八伝来 菓子木型	6組		明治～昭和時代	金澤菓子木型美術館
57		五節句集解	1冊	舟木長左衛門安信 著 舟木知右衛門安通 写	原本：安永4年(1775) 天明3年(1783)写	東京都立中央図書館
58		庖厨調飪規矩	2冊	舟木長左衛門安信 著	江戸時代中期	東京都立中央図書館
59		料理無言抄	9冊	舟木伝内包早 著	原本：享保14年(1729)	東京都立中央図書館
〈彦根藩井伊家と菓子〉						
60		井伊直治書状	1枚	井伊直治 筆	元禄15年(1702)	個人
61		楽々亭座右耳袋	1冊	井伊直亮 筆	江戸時代後期	彦根城博物館(井伊家伝来典籍)
62	◎	茶湯一会集	1冊	井伊直弼 筆	安政4年(1857)	彦根城博物館(彦根藩井伊家文書)
63		黒文字	9本		江戸時代後期	個人
64		多賀杓子形菓子器	1枚	井伊直弼 作	江戸時代後期	彦根城博物館(井伊家伝来資料)
65	◎	井伊直弼茶会記 「彦根水屋帳」 「東都水屋帳」	各1冊	井伊直弼 筆	江戸時代後期	彦根城博物館(彦根藩井伊家文書)
66	◎	懐石留	1冊	井伊直弼 筆	江戸時代後期	彦根城博物館(彦根藩井伊家文書)
67		（複製）菓子木型「柳のしずく」	1組		原本：江戸時代後期	いと重菓舗

特別展「大名と菓子」展示作品リスト6/6

通番	指定	作品名称	員数	制作者	制作年	所蔵者
68	◎	当座日記留帳	1冊		慶応2～明治元年 (1866～68)	彦根城博物館(彦根藩井伊家文書)
69		「諸方御用之留」 (虎屋黒川家文書のうち)	1冊		元禄7年(1694)	虎屋文庫
70		「御用留帳」 (虎屋黒川家文書のうち)	1冊		享保10年(1725)	虎屋文庫